

# 歴史まち歩き

5

## 近世の曙 桶狭間

コース【名鉄有松駅▶桶狭間神明社】

# 天候さえも味方につけた信長の知略が、 義元の野望を打ち砕いた決戦の地

尾張の“大うつけ”織田信長が、3千という少数兵力で、圧倒的な戦力の不利を覆し、2万5千の大軍を擁した駿河・遠江・三河の大大名・今川義元を討ち果たし、その後の“天下布武”への足がかりとなった「桶狭間の戦い」。戦国乱世の時代を駆け抜けた英雄に思いを馳せつつ歩くみち。

### ① 高根山(たかねやま)

今川軍の先陣隊が、鳴海、大高方面に対して備え布陣していた場所。桶狭間の南北に連なる丘陵にあり、北側から高根山、幕山、巻山の順に並んでいます。高根山から幕山にかけ、松井宗信率いる約1,500名の兵が、そして巻山には約1,000名の井伊直盛隊が陣取っていました。特に、高根山は標高54.5mあり、鳴海城、善照寺砦、中島砦が一望でき、織田軍を監視するには適した所でした(桶狭間の戦いで、松井宗信、井伊直盛の両大將は戦死)。

### ③ セツ塚(ななつづか)

桶狭間の合戦で今川義元を討ち取った織田信長は、このあたりに全軍を集めて勝ちどきをあげると、今川方の武将の首実検を行いました。そして信長は、村人に戦死者を葬るように命じ、清州へと引き上げていきました。村人は7つの穴を掘り埋葬、セツ塚として吊ったと伝えられています。昔から地元では、この塚を取り崩したりすると「たたり」があるといわれています。

### ⑤ おけはざま山(おけはざまやま)

義元の本陣があったところ。織田信長が釜ヶ谷から突撃したのは、このおけはざま山の本陣であり、桶狭間の戦いの主戦場となりました。そして、義元は古戦場公園辺りまで攻め込まれ、ついに討ち取られました。

### ⑦ 長福寺(ちょうふくじ)

天文7年(1538年)に、善空南立和尚と言う人が創建しました。桶狭間の戦いの後、信長は、この寺の境内で義元やその武将の首実検をしたといわれています。その時立ち会った茶坊主、林阿弥は主君義元や家臣の菩提を弔うため再び寺を訪れ、その時持参した阿弥陀如来が、現在も寺の本尊として祀られています。堂内には、今川義元と松井宗信両公の木像も安置されています。

### ⑨ 桶狭間神明社(おけはざましんめいしゃ)

神社の起源は不詳ですが、桶狭間村は、14世紀の中ごろ南朝の落武者が山間に逃れ、隠れ住んだのが始まりと伝わっており、この村人たちによって祀られたのが神明社です。社殿は、何度か建替えられていますが、現在の社殿は、昭和10年(1935年)に改築されたものです。また、境内には、13の末社が祀られています。神明社には、義元の家臣瀨名氏俊が、戦勝祈願した時奉納した酒桶が、神社の宝として保存されているほか、尾張4代藩主の徳川吉通が知多巡幸の際に植えた杉の枯木が、本殿正面の両側に残っています。

### ② 釜ヶ谷(かまがたに)

桶狭間の戦いで、織田軍を勝利に導いた重要なポイントです。現在は大学の構内にありますが、善照寺砦から中島砦を経て桶狭間に進軍した織田信長軍が、荒れ狂う雷雨の中、おけはざま山に陣取る今川本陣への突撃のチャンスを探っていた所です。信長は天候回復と同時に、激しい雷雨で混乱していた今川本陣へ突撃を命じて今川義元を討ち取り、大勝利を収めました。

### ④ 桶狭間古戦場公園(おけはざまこせんじょうこうえん)

桶狭間の合戦の地としては諸説ありますが、この公園一帯は、桶狭間の戦いの中心地であり、おけはざま山の本陣から追われた今川義元が、服部小平太と毛利新介によって打ち取られた最期の地といわれています。地元では、田楽坪とも呼び、今は合戦当時の地形、城、砦などをジオラマ化し、中央には織田信長と今川義元の銅像を配した桶狭間古戦場公園として、合戦から450年目の2010年に整備されました。全国から歴史愛好家など多くの人々が訪れる桶狭間古戦場の中心的な史跡です。義元が昼食をとるために馬を繋いだとされる「今川義元公馬つなぎのねず」は、触れると熱病にかかるという言い伝えがあるほか、義元の墓標や、義元が水を汲み、襲撃後には首を洗われた泉もあります。かつては近くを「鞍流瀬川(くらながせがわ)」が流れており、戦によって流された人や馬の赤い血と一緒に、馬の鞍が流れて行ったことから名づけられたものでした。

### ⑥ 瀨名氏俊陣地跡(せなうじとしじんちあと)

義元の家臣瀨名氏俊が、先発隊として本陣を設営のため5月17日に着陣した所です。氏俊は、桶狭間神明社へ戦勝を祈願し、戦評の松の下で軍議を開き、本陣設営を終えて大高城に向かい、桶狭間で戦死はまぬがれました。昭和の時代までは、陣地解説板前の道幅の半分は鞍流瀬川があって、いつもきれいな水が流れていました。初夏には、ホタルが乱舞し、村人はこのホタルを、合戦で討ち死にした戦士の亡霊といい、一部のホタルは西(京都)の方に飛んでいくともいわれていました。また、この辺り一帯に黒色の「はぐろトンボ」も飛んでいましたが、今川義元が「鉄漿(おはぐろ)」をしていたので、地元では「おはぐろトンボ」といい、捕獲することはありませんでした。

### ⑧ 戦評の松(せんびょうのみつ)

今川軍の先発隊として、桶狭間合戦の2日前にこの地へとやってきた瀨名氏俊が、義元の本陣の設営を終えたあと、この大松の下に武将を集めて戦いの講評をしたといわれ、戦評の松と言います。初代の松は、樹齢400年を超え、直径1m以上あるすばらしい松でしたが、昭和34年の伊勢湾台風で枯死し、現在の松は3代目にあたります。今川義元の命日である旧暦の5月19日には、白馬に乗った義元の亡霊がここに現れるという伝説もあります。

